

秋季のほのぼの法話

もう一人のおくりびと



さんには僧侶としての仕事と同時に「教誨使」としての 役目がありました。裁きを受けた死刑囚とひざを突き

合わせ、話に耳を傾けるという仕事です。

送るという、とても辛い役目です。 受刑者の罪の深さや苦悩に向き合い、時に死刑囚を刑場で見

たばこの長さが、残された人生の時間だと感じたそうです。拘置 が死刑執行に立ち会う最初の瞬間だったそうです。 え、灰がポトリ、ポトリと落ちたそのとき、「さあ、いこか」。それ 所の所長から手渡されたタバコの先が、息を吸い込むたび赤く燃 Kさんはこの日、ある男性と向かい合いました。7センチという

を母親と信じて育ったというのです。 た。父を知らないその男性は生後間もなく母親に捨てられ、祖母 三十歳の男性死刑囚は、二人のいのちを奪った強盗殺人犯でし

ました。友人の母親が押しかけてきて吐いた言葉が「親なしめが」。 ですが、学校で友人と口論になり、投げた石が同級生の目に当たり

密売に手を染めたのです。 この一言で男性は捨て鉢になったそうです。そしてやがて麻薬の

控訴しなかったそうです。 審で死刑判決を受け、「私が許される世界は死しかない」と

うなら」と頭を深く下げたということです。 執行の日、男性は居室を掃除し「布団さまも雑巾さまもさよ

だ。汚いものを綺麗にするために、自ら汚れてくれた雑巾に、はじめ 桜に「きれいですね」と言い、見送りに来た6人ほどの死刑囚と一人 て感謝の気持ちが出たのです。廊下を黙って歩くと、窓から見える 今まで見向きもしなかった布団は、私をずっと支えてくださったん

> た「白骨の御文」を自ら拝読することを望んだそうです。 した。男性は浄土真宗のみ教えで人間のはかなさを伝えてくれ れ会が、奥に仏壇がある講堂で行われ、受刑者や職員が集まりま

それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに

おおよそはかなきものは

この世の始中終、まぼろしのごとく一期なり

(蓮如上人 御文章)

とおっしゃっています。 れ、苦しみ続けるのです。そんな姿を、蓮如上人は「浮生なる相 人は、次から次へと当てになりそうなものを信じては裏切ら

こにいますよ」の喚び声の「阿弥陀」さまのお念仏なのです。 のを当てにするのではありません。どんな状態になっても「私はこ 大切かを知っていただきたいのです。当てにできない、流れ行くも と善人を分けることではありません。何もかも失ったとき、何 K僧侶が死刑囚を通じて教えていただいたことは、決して罪人

「人生が変わる親鸞聖人の言葉」川村妙慶師著





ちが失われたのですよ!」と周りの人に叫んだそうです。くりきてください」と。そしてKさんは「みなさん、今日一人のいの「いずれかあの世でお会いしますが、あなたたちはなるべくゆっずつ握手をしたそうです。そうして、こう言い残しました。

紙や面会に嫉妬したり、争いが絶えないそうです。病んでいる人。拘置所生活が長くなると、ほかの受刑者に来た手教書をすり切れるまで読む人、怒鳴って暴れまわる人、精神的にKさんは拘置所の中でさまざまな人を見てきたそうです。仏

んにお礼をしたいと「南無阿弥陀仏」と何度も称えるそうです。しかしそういう状況を経て、最期は自分を救ってくれる阿弥陀さ

となるが、死刑囚には意味をなさないということです。
Kさんが辛いのは、懲役の受刑者にとっての教えは再生の機会

男性の刑の執行は三日前に通知されました。最後の日のお別せるチャンスをあたえたい。しかしそれはできない。辛いですよ」「仏の慈悲を伝えることしかできないのです。死刑囚にだって改心さ

「おいじょうぶ」って言えば、心がまあるくなる「おいげさま」って言えば、心がウキウキする「おかげさま」って言えば、心がつながっていく「おかけさま」って言えば、心がおじぎする「だいじょうぶ」って言えば、心がココニコする「おはよう」って言えば、心の窓が開く

村上信夫作「うれしいことばの歌」



・平成30年報恩講法要ご案内

◎十一月十日(土)

午後二時(ひるの座)

午後七時(よるの座

◎十一月十一日(日)

午後二時(ひるの座)ご満座

ご講師 本願寺派布教使 野村康治 師

二十分よりしていただきます。
★年行司の方によります、お志の受付(帳場)は、午後一時

す。ぜひご協力お願い致します。 一日も早い復興を願って「災害義援金」募集を行っていま★大阪北部地震、平成30年豪雨、北海道地震の被災地の

除夜会ご案内

◎十二月三十一日(月)

午後十一時より午前一時過ぎまで

参りをいたしましょう。 ★深い静寂のなかに、´ゴーン、御恩、と殷々と響きわたる *** 参りをいたしましょう。 一なのは事行事の締めくくりと のでです。大晦日の夜、除夜の鐘を撞いて阿弥陀さ のおして下さい。お正月はご家族そろってお仏壇に慶びのお ので、冷夜の鐘を撞いて阿弥陀さ をいましましょう。

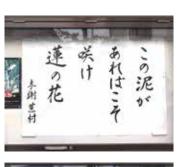


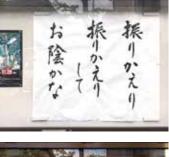
弱者にとって死と向かい合う厳しい夏になりました。10月になっても大 格的な秋を迎えようとしています。 型台風が沖縄、日本列島を縦断していますが、ようやく秋風が吹き、本 え、、4、1度を記録しました。「熱中症」は日常語になってしまいました。 ◆七月中旬からの異常気象。今年は本当に暑かったですね。メディアは 「猛暑」「熱暑」「酷暑」の見出しでしたが、連日気温は軒並み35度を超

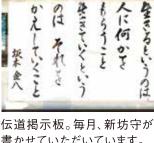
ことか!どうか皆さま、自然災害で被災された方々だけではありませ どうでした?皆さんご無事でしたか?」いのちの確認の連絡をいただ 7月豪雨、9月4日の台風21号、9月6日の北海道地震と続きまし です。これがお念仏をいただく身だからこそ私が、生かされている身、 られた方はどれほどうれしいか!。有り難いか!。元気、いのちを頂くの て下さい。「お元気ですか!」、いのち、の確認をして下さい。お声をかけ きました。この有り難い「いのちの喚び声」がどれほど元気をいただいた が大分破損しましたが、全国の仲間のご住職や東北や、広島のご門徒 心より哀悼の意を表します。当山も6月18日の地震で、本堂屋根瓦 た、この度の災害によっていのちを失われた皆さま、ご遺族の皆さまへ、 た。災害により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。ま ん。親、子、兄弟、姉妹、地域の方、ご縁を結んだ方に、どうかお声をかけ ◆今年は、本当に自然災害が多く発生した年になりました。4月9日 (推進委員)さん方から励ましの電話をいただきました。「地震で被害 島根西部地震に始まり、6月18日の大阪北部地震、そして平成30年

> 仏者の法要です。思い通りにいかない人生。年を重ねるに従い、より一層愚 報恩講とは、親鸞聖人の祥月命日の法要です。親鸞聖人がお念仏一つで、こ とようやくお味わいが生まれ、周りの方々のいのちが愛おしく思えてく 下さいませ。どうぞ報恩講お参りいただきますようお願いいたします。 で、どんな時でもいのちをいただいた、慶びの人生、にお味わいを深めていって 痴、不満が増す日暮らしの私が、お念仏を申す身にならせていただいたこと るのです。どうぞお念仏をいただく身にならせていただきましょう。 ◆秋風が吹く、季節が一番落ち着いた11月は、萬徳寺報恩講の季節です。 私が救われていく道をあきらかにして下さったことに感謝申し上げる念

とって今が一番、お念仏が心に染みとおる一時。お念仏ご相続していただ りです。縁あってこの娑婆の世界にいのちを受け、そして一人いのちを終 章』のお言葉ままの現実に直面いたします。ご家族の方々はお寂しい限 きますよう念じ上げます。なもあみだぶつ。 える。私たちもまた必ず死を迎え、往生させていただきます。ご家族に 朝には 紅 願あって 夕には白骨となれる身なり」『蓮如上







書かせていただいています